

国・地域名

台湾

<p>人口・経済発展状況等</p> <p>〔参考：日本〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口：1億2,682万2,000人（2017年1月確定値、総務省統計局） ●実質GDP成長率：1.2%（2016年度、内閣府） ●1人あたりGDP（名目）：3万8,917ドル（2016年度、IMF） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口 2,346.3 万人 ・実質GDP成長率 0.65 % ・1人あたりのGDP（名目） 2万2,384 ドル ・在留邦人 2万1,887 人 ・訪日旅客数 416.8 万人 ・日本食レストラン数 1万920 店 	<p>行政院主計総処（2015年）</p> <p>行政院主計総処（2015年）</p> <p>行政院主計総処（2015年）</p> <p>外務省「海外在留邦人数調査統計」平成29年要約版</p> <p>日本政府観光局（JNTO）2016年</p> <p>台湾のインターネットサイト「iPeen 愛評網」における「日式料理」の該当数より、「歇業」（閉店の意）を差し引いた数。 （iPeen 愛評網）http://www.ipeen.com.tw/search/taiwan/000/1-0-2-0/</p>
<p>日本からの農林水産物輸出状況 （平成28年農林水産物・食品の輸出実績、農林水産省）</p>	<p>3位 931億円 うち農産物732億円(78.7%)、林産物17億円(1.8%)、水産物181億円(19.5%)</p> <p>輸出額の多い品目： たばこ、りんご、さんご、ソース混合調味料、アルコール飲料、ホタテ貝</p>	
<p>味覚、嗜好上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・汁物は薄味が好まれる。日本では塩味だけの食品が、台湾では甘さがプラスされていることもある。みそ汁やマヨネーズ等は日本人にとって味が薄かったり、甘く感じられることも多い。また、スイーツの糖度は日本よりも低い。 ・一方、毎年日本に旅行している層や若年層を中心に、本場（日本）そのままの味が好きな層も存在する。 ・晩酌の習慣が無く、食事中に酒を飲む人は少ない（普段の夕食ではビールすら飲まないが、宴会では度数の高いお酒を大量に飲む）。 ・ご飯は白飯ではなく、何かをかけて食べるケースが多い。 ・台湾で獲れない海産物は有望。 ・商品自体は台湾市場に既にあるものでも、日本産品としては製法・パッケージ・ブランド力・味等で明確に差別化できる商品が求められる。 	
<p>制度的制約</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・牛肉は輸入禁止（優先解禁働きかけ国）。豚肉は輸入可だが、と畜・加工施設登録が必要。 ・鶏肉は2015年7月に高病原性鳥インフルエンザの清浄国認定を受けたものの、台湾内の手続きが終わっておらず、輸出不可（2017年6月現在）。鶏卵については2015年10月より輸出可能。 ・貝類：重金属（基準値超え）の関係で輸出できないことがある。 ・コメは2003年から関税割当品目となっている。関税割当外の輸入は、1kg当たり45台湾元（1台湾元=3.68円：2017年6月28日現在）の関税が課されるため、関税割当の輸入枠の配分を受けた業者経由で輸出するのが現実的。 ・柑橘類、シソ、茶：残留農薬の関係で輸出できない事例が増えている。 ・包装済み食品には、2015年7月から栄養成分表示の一つとして、新たに「糖」の表示が義務付けられた。 <p><原発関連規制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島、茨城、群馬、栃木、千葉産：全ての食品（酒類を除く）が輸入停止。 ・上記を除く42都道府県産食品については全ての食品（酒類を除く）が産地証明書、一部放射性物質検査報告書提出が必要。うち、野菜、果実、水産物、海藻類、乳製品、飲料水、乳幼児用食品は台湾にて全ロット検査。加工食品は台湾にてサンプル検査。 ・岩手、宮城、東京、愛媛の水産物：検査機関が発行する放射性物質検査報告書が必要。 ・宮城、埼玉、東京の乳幼児用食品、乳製品、キャンディー、ビスケット、穀類調製品等：同上。 ・東京、静岡、愛知、大阪の茶類産品：同上。 	
<p>商流・物流・商習慣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高級百貨店（SOGO、微風広場、新光三越、高島屋等）など的高级スーパーから、一般のスーパー、量販店に至るまで日本産品が販売されている。 ・旧正月、中秋節に食品のギフトを贈る習慣がある。 	
<p>日本食普及状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本産食品は種類、量ともに豊富であり、成熟市場。 ・日本産品であれば一度はトライアルで使ってもらえる可能性があるが、継続するかは別問題。市場における競争は非常に激しい。 	